

報



會

昭和八年九月

28

日本山岳會

盤梯山

辻村太郎

世界に火山國は多いが日本のやうに複雑な火山景觀が分布して居る所は少ない。此所には富士の秀麗な火山錐や阿蘇の大カルデラは云ふに及ばず、箱根の開析火山や十和田のカルデラ湖なども類の稀な火山形として誇つて宜いのである。天城や立科山附近のやうな優美な火山の景色に至つては、日本に獨特であつてしかも方々に分布して居るから、我々は其の有難さを忘れやうとして居るのには勿體ない話である。然し日本には不思議にも御嶽や乗鞍岳を除いて高峻な火山が多くない。此れは瓜哇のメラピ、スメル等の活火山や北米のレニア、シアスタ等の大火山と比べて見ると容易に判る。

其れならば日本の火山景には峻厳な景色風光が無いであらうか。鳥海山や北海道の駒ヶ岳及び温泉岳の眉山のやうに爆裂の噴出が起り、山體が破壊されて凄じい斷崖が火山體の切斷面を見せて居る所では、火山景の多くが柔和な姿を呈して居るだけに、忿怒の容貌が強く印象される。火山學者は此んな爆發をウルトラヴルカノ式噴火と名づけた。其の古典的實例として知られて居るのは我が盤梯と瓜哇スマトラ間のクラカタア島である。クラカタアの火山島が南海の上に淋しく聳えて居るのも床しうが、賑かに平和な文化景に囲まれて、無言の威嚴を示す盤梯山の姿は賞すべきでは無いか。

會報擴張すべし

藤島敏男

昨年十二月、この會報が十二頁に擴張されたとき、これは中々いい思ひ付きだと思つた。編輯委員の苦勞は増したに違ひないが、私にとつては、會報の届くのが、從來に比してより以上に樂しみとなつた。

年三回刊行の「山岳」だけでは、會と會員との間に疎遠にもなるし、また登山界の情勢を會員に傳へるに不足であるし、ひとつ會報を發行しやうぢやないかといふやうな提案に基いて昭和五年十月第一號が刊行された。爾來年々を隔みて二歳半、號を重ねる二十六、會報は當初の目的を充分に果し、會員間にもよりひろく本邦の登山界にその存在を認められてきたと思ふ。

J・A・Cの會報は堅苦しいと言つた人もあるが、私はさうは思はない。例へば登山界の下らないゴシップ、夏山を語る座談會、新緑の山旅案内、匿名でなければ書けないやうな記事、といったやうなもののないのが會報のいい所だ。

擴張以來、これまで會報上に餘り筆を執られなかつた會員諸兄が續々と稿を寄せられて、讀物として奥深いものがあつたばかりでなく、私達にいい刺戟となるやうな記事が毎號紙上に賑はし、そのいづれもが、讀み捨てにされるやうなものもなく、しつかりした内容を持つてゐるのを私はみた。それで會報を十二頁と限局せず、さらに増大して欲しいとき

へ考へてゐたのであるが、六月號からまた縮小されて了つたのは、妙からず残念である。縮小は經費其他の都合により已むを得ないところけれども、その所が何とか融通のつくものならばまた十二頁に復活して貰ひたい。

研究、考證、紀行、記録、いづれにしても纏つたものを「山岳」誌上に發表しやうとなると、中々臆却でもあるし、誰でもが筆を執り得るといふ譯にゆかない。また、堂々の論陣を張らず、考へてゐること、感じたことを、簡単に要約して書き綴つておかうといふ人もあるに違ひない然し寸言短文の中にも聴くべく味ふべく讀むべきものゝあるのはいふまでもなく、増頁後の會報に現はれた多くの寄稿は明らかにこのことを證據立てゝゐる。

會報は「山岳」と異つた意味で會員に、よき知識と刺戟と讀物とを與へてくれるのだ。だから、私は繰返していふ、會報を十二頁に復活して貰ひたい。(七月六日)

圖書室開室日變更

八月中は晝間開室を休んでおりましてが九月より従前通り開室することになりました。

月、水、金 午後五時—九時
火、木、土 午後一時—五時

主要目次

★盤梯山……………辻村 太郎(一)

★會報擴張すべし

……………藤島 敏男(二)

★山岳研究講話

……………今西 錦司(三)

★登山經歷表について

……………黒田 孝雄(三)

……………登山經歷表

No. 1……………(四)

……………同

No. 2……………(五)

★圖書紹介

……………岳第四輯 關西學聯報告 九州

……………山日記 日本山岳新聞 陸地測

……………量部新刊地圖目錄

……………★山の消息

……………臺灣近況 劍岳に於ける女學生

……………團體登山の成功 九州便り 魚

……………沼駒の新設小屋

……………★會員通信

……………(八)

……………★會務報告

……………七月定例理事會 新入會員 會

……………員計報 住所變更 新着圖書

……………購入圖書 會員寄贈圖書

……………關西小集會記事

山岳研究講話 5

今 西 錦 司

環境變化に對する反應

環境が固定的なものでない以上、その支配下にある山そのものも亦絶えずこの環境の變化に順應して、自らを變化せしめねばならない。云ひ換へれば順應し、變化した結果、今日の狀態を呈してゐるのである。けれども今日の狀態だけを見て、過去に於て來た環境の詳しい變化を知る事は出来ない。そこで環境變化の齎した結果の一つである生物相の變遷の跡を追つて、これから逆にその原因である處の氣候の變化を判讀しようといふわけになるのであります。

生物程寒暖乾燥に對して敏感なものはない。それで測候所の方でも單なる氣象觀測以外に、燕の渡りとか或ひは櫻の開花とか云ふ現象を選ん

で、その期日を長年に亘つて記録し以つて精密な觀測器械から得られた結果と比較する處の「氣節學」なる一部門が設けられてゐる程である。地質學者が發掘された化石を調べてその地質時代に於ける氣候を論ずるのは、こゝ云ふ意味で最も有力なものとされ來つたのであります。唯化石に出て來る動植物の中で現存してゐるものは殆んど數へる程しか無い。従つてそれらの動植物の生活してゐた頃の環境狀態に就いては、現存してゐる類縁の種の生活狀態から推測するので無かつたならば、齒や骨格の構造上から矢張り推測を下す

より外には知り様が無いのであります。

こゝに研究上の大きな困難があり又結論の不確實さを伴ふ原因が潜んでゐるのであります。たま／＼マンモスの様に氷詰めになつて出て來れば占めたものであります。この場合でもこの再び地上に現れたマンモスが毛皮を落けてゐたと云ふ事實を、今日印度やアフリカに住んでゐる象の無毛なものと比較して、これから直ちに前者が寒帶のツンドラに限つて棲息してゐたものの如く斷定して了解するのは尙早ではなからうか御承知の様に、我が國のかもし、かなどは溫帶に住み乍ら中々にいゝ毛皮を持つてゐる。

かくの如き誤譯の危険を少なくする爲には、唯單に分類上、或ひは形態上の類縁にのみ頼らずして、もつと現存種の一つ一つについてその生態を調査する事が最も望ましいのであります。過去に對しては矢張り現在が唯一の鍵である。即ち生態學の進歩の上に築かれてこそ、初めて「古生態學」は成立するのであります。

併し化石はそう望み次第に何處にでも出てくるものでもなく、又洪積期の氷期以後と云つた様な比較的短い期間に於ける氣候の連續的變化を見る爲には不適當であるから、こゝ云ふ目的の爲には「花粉分析」と云

つて、泥炭層中に埋藏された花粉を調べて、これからその地方に於ける植生狀態の變遷、従つてその氣候の變遷を研究すると云ふ方法が、近年に至り盛んに行はれて來てゐるのであります。我が國に於きましても既にこの方面の研究に着手してゐる方があります。

こゝにも一つ生物學者、殊に植物の分類學者が現在に於ける植物の分布狀態を論ずるついでに、過去の氣候變化に遡言及する事が度々ありますが、これは更に間接的な證明法になつて了ひますから、その論據は一層薄弱たる事を免れ難いのであります。例へば本州の高山地帯を彩る可憐な高山植物の分布の由來に關して多くの人々は次の如く説明してゐるのであります。

高山植物は本州では高山の頂上だけにしか分布してゐないが、その多くはもつと北の方へ行けば平地にだつて咲いてゐるものである。之は風が吹き散らしたり、鳥が運んだりして擴がつたものでなく、もとは北の國に育つてゐたものが、氣候が寒くなると共に段々南の方へ避難して來て、或時代には本州の平地に迄分布してゐたものに相違ない。それが氣候の再び溫暖になると共にもとの様な寒い場所を求めて、或ものは北へ歸り、他のものは高山の頂上にまで登つたのである。然してこの高山植物が平地にまで廣く分布してゐた時代に、日本アルプスの中腹以上は恐らく氷雪で包まれてゐたであらう

と云ふのであります。

けれどもこれは前同に於いて既に述べました様に、寒いと云ふ事を直ちに氷期即ち降水量増加の時期と結び付けて考へたがる癖の一つの現れであつて、高山植物の分布に最も適當な時期と云へば、それは寧ろ氣候が寒いと同時に乾燥した間氷期に外ならないのであります。何となれば一般的に申して高山植物の分布は勿論一定の溫度がその南限を定めてゐるでせうが、それかと云つてその範圍内なら何處にでも生え得るものと云ふに、次にその範圍内にあつて分布を規定するべきものに水分關係があり、即ち高山植物にとつては一定度の乾燥狀態が必要だからであります。だから多少低い處で、その他の場所がすつかり森林に掩はれてゐても、露出した岩壁などがある

と、こんな所に高山植物を見る。之を寒地植物の遺存であるなどと無理に解釋する必要はないのであります。それ故もし今のまゝの状態から、太陽輻射熱の減少によつて我が國の狀態がより寒く、より乾燥してくるものとすれば、森林帯は移動を始め、森林限界は下降し、高山植物も亦下降する。が反對に輻射熱が増加して、氣候がより濕潤となればその反對に森林帯は上昇し出し、高山植物も又上昇を要求されるが、之に反して雪線は下降するから、雪線と森林限界とは交差せんとする傾向を示し、この場合の方が寧ろ高山植物にとつては、その本来の分布範圍が狭められる様なわけになるのであります。

す。

この狀態が更に促進されるならば愈々氷河が流れ出し、氷雪氣候の影響の下に破壊された岩石は堆石となつて運ばれる。又或る高度以下では水蝕の暴威の荒れ狂ふまゝに山拔けは頻々として起り、高山植物は森林限界以下のこうした岩石の堆積や、裸地にもその避難所を求めたであらう。それは一つの事變であり、分布の混亂狀態であり、又種族にとつての一つの危機である。

然らばかくの如き事變、かくの如き危機に直面して生物は果して如何なる反應を呈して來たのであらうかと云ふ事が次の問題となつてくるのであります。生理學者は實驗室に於ける研究から、夫々の生物は一個の環境因子につき一定範圍の生活圏を有するものとなし、これから推して自然界に於いても亦、これらの生物の生活範圍に關しては、その環境を形成してゐる諸因子中で、一つでもその限界に到達せる因子が存在するならば、この因子が即ちその生物の分布を規定してゐるものとして、之に「制限因子」なる名稱を與へてゐるのであります。處で自然に於ける生物の生活狀態を見ると實驗室で得られた結果通りに、そう杓子定木に行つてゐるものではなく、そこでは各々の生物がその全能を發揮して自然に適應するべく活動してゐる事を知らないのであります。即ち生物は人間の作つた機械と違つて、自ら調節する事の出来る複雑

な、又巧妙な有機體である。彼等は急場に臨んで、その際生きながらに緊要でない所のあらゆるものを犠牲にしても、尙その急所なり、缺點なりを補整せんとする。それにしても相手は大地震、大噴火、大氷河、大洪水である。補整の能力はあつても機會が恵まれなかつたものもあらう。勿論こう云つた事變に遭遇して之に適應し、之を切り抜ける能力がなくて絶滅する處の種は甚だ多いのである。又うまく切り抜け得た種に於いてさへ、尙多くの個體が死滅しそれと一諸に多くの遺傳因子が矢張りこの地球上から絶滅して行つたのである。

かくて事變が過ぎ去つた後の地上には、それ以前とは打つて變つた乏しい数の生物のみが取り残された。彼等は今や生命を脅威する處の重壓から解放されて、裸地となつた處に再び植民し、蕃殖し、自由を謳ひ、生を讚美したであらう。然もそこには事變を記念する處の幾多の新しい種がこの世に生れ出でたであらう。その代りに一度犠牲にしてつた形質は再び之を取り戻す事が出来なかつた。こゝに生物と云ふものの持つ一つの宿命があり、漠然たる云ひ表はし方ではあるが、種族と云ふものの生命を現はすエネルギーの總量に限變のある事を示すものである。又こゝにして生物進化の真相の幾分を窺ひ知る事も出来るのであります。かくして事變から遠ざかるに従ひ地球上は再びもとの如くその隅々までも生物で充滿されるに至つた。けれどもこれは一方から云へば自然が又もとの均衡に復歸した事を意味するものでありますから、従つてある種類のものが矢辭に其分布領域を擴げる事も、又新種が生れ、それが固定すると云つた事も、最早困難となつて來るのであります。又こうして復歸した後の生物相と云ふものは、先に申した通り、最早事變以前の生物相とはその面目を一新したものであります。も敢へて不思議は無いのであります。

日月の運行と云ひ、晝夜の移り變りと云ひ、自然は如何にもその規則正しさを示してゐるものの如くではあります。その半面ではかくの如く常に不連續的に、又不可逆的に發達を遂げて來たものであります。そしてこの事は取りも直さずかゝる環境變化に順應して今日に及んだ山にも、その山の生物にも、そして又その山に登る私達人間にも、當然その適用性をその發達史上に認めざるべからざるものに外ならないのであります。(續)

*

原稿募集

山岳 第二十八年三號の原稿、切期日は九月末日です。

會報 隨筆、研究、消息の原稿を御送り願ひます。バ切期日は毎月末日です。



登山經歷表について

黒田孝雄

登山經歷表の作成並に調査は、本の年來の懸案であつて、種々の都會によりいまだその研究に着手し得なかつたものである。

この方面に於ける研究家の一助にもと、私はこゝに不完全な腹案として、登山經歷表の一の雛形を會員諸兄にお目にかけたる事とした。これが幸にも、機縁となつて會員諸兄の登山經歷の調査となり、ひいては我國のアルパイン・クラブ・レジスターの編輯ともなり得れば會として一つの大きな嬉びであらう。

登山經歷表の必要記載事項は、大體アルパイン・クラブ・レジスターに倣つて見たのであるが、他に御意見あらば是非何はせて頂きたい。

記入方法で最考慮を要するものは「登山せる主要山岳名或は經路」であらう。私もこれには少からず悩んだのであるが、同じ登山といつても時代と各自の嗜好により、山頂のみ漁る人もあれば、時期もあり、峠や高原や溪谷を好んで歩く人もあればさうした時期もある。また細かいヴァリエーションルートをやめる人小

きな山旅に満足する人もあらう。かゝる凡ゆる場合を豫想して記入方法を考へて見た。

しかし、年代とその主要山岳名のみを簡単に記載するアルパイン・クラブ・レジスターのやり方も一例であるが、普通の經路をとる時には主要山岳名のみを、そして特殊のルートをとる時には、又ピークでなく峠や高原溪谷の場合には、そのルート

を簡単に記入するやうにしたらうか。理想としては凡ゆる場合を簡單な經路で示すのが最適當な記入方法であらう。

またこの調査範圍は、全國登山家について行ふが理想であるがそれは

不可能であらう。先づ手始めに、現在の會員のみについて調査の上、次に故人會員、次に退會者について行つたらうからう。その成績によつて他に及ぼすことにしたらう。

調査の時期も、ある適當の時期を定め、それで一應調査を完成し、その上々新しく追加して行くのも一案であらう。

ともかく會員だけでよいから早く調査を完成し、その上「日本山岳會員登山經歷録」なんていふものか、會の三十週年でも記念として出版できたら、それこそよい記念として永久に残るものではなからうか。

(八・八・十五)

山岳研究講話正誤表

頁	段	行	誤	正
三	四	十五行目	氷蝕の跡を。	氷蝕の跡と。
同	同	終りから	氷蝕	氷蝕
同	同	十二行目	氷蝕	氷蝕
同	同	八行目	氷蝕	氷蝕
同	同	三行目	氷蝕	氷蝕
同	同	二行目	氷蝕	氷蝕
同	同	五	氷蝕	氷蝕

山日記一九三三年版正誤

本年度山日記中、一二頁に誤植あり、便宜上全文を掲げておきます。

GRINDELWALDERLIED (Gothf. strasser in Grindelwald.)

In Grindelwald den Gletschern by, da cha mu gäbig liden.
Mir hei so lang mer hie scho syn, nie lengi zyt no g'haben.
Da gangid wan ach d'r Arde treid, zum Mond, uf d'Sunna,
wenner weid,

ier findid nid vo Form u G'stal, es schenders Thal wan

Grindelwald!

Ier findid nid vo Form u G'stal, es schenders Thal wan

Grindelwald!

Halto, halto! Halto, halto! Halto, halto, ja halto, ja ho!

No.1

登山經歷表 日本山岳會

氏 名	(振假名ヲ附ス)	年 月 生
住 所		
職 業		

所 屬 山 岳 團 體

會(年 月入會 年 月退會)
會(年 月入會 年 月退會)

一 般 略 歷(學歷等)

山岳ニ關スル主要著作(單行本ノ場合ハソノ名發行所及ビ發行年月、雜誌ノ場合ニハソノ名及ビ年月號數)

No.2

登山經歷表 日本山岳會

氏 名	
	登山せる主要山岳或は経路
年 月	
(例)	
昭和八年三月	峨々温泉—刈田嶽—熊野嶽—高湯
同 四月	土合—西黒澤—谷川嶽—土合
同 同	穂高涸澤池ノ平(日本山岳會山小屋敷地檢分ノタメ)
同 五月	毛度澤—仙ノ倉山—大源太山—三國村
同 六月	土合—マチガ澤—谷川嶽—天神峠—湯檜曾
同 八月	八方尾根—唐松嶽—五龍嶽—鹿島槍—鹿島。穂高涸澤キャンプ—北尾根—前穂
	高。奥穂高—デヤングルム。
備 考	1 年代順ニ記入ノコト 2 記述ハ簡潔ニ主要経路ヲ記入ノコト 3 初登攀若クハ特殊ナルルートノ登攀ナリト思推セラル、場合ハ可成詳細ニ、案内人同行者氏名モ記入セラレタシ尙發表セル文献アルキハソノ名及號數等ヲ記入ノコト 4 案内人及同行者ノ氏名モ必要ト認ムル場合ニハ記入セラレタシ 5 故人ノ場合ハ調査セル文献ヲモ並記ノコト 6 用紙不足の場合ハ會宛ニ請求アリタシ、同型ノ用紙ヲ用ヒラルモ可ナリ



圖書紹介

岳 第四輯

三越山岳部 昭和八年四月發行
久しく發行を斷つてゐた同山岳部
が冬眠より目覺むべく警鐘として數
年振りに出版したるもの、全部で約
百廿頁。昭和六年十一月上越國境茂
倉岳に於て遭難した故郷島君の遺稿
並に其搜索記事、遭難後記等が載つ
てゐる。其他狩小屋澤より至佛、尼
澎、奥日光(山田)八ツ峰(土方)乗鞍
岳(土屋)冬の飯豊山(南山)他數編あ
る。(S・T)

關西學生山岳聯盟報告 第四號
昭和八年六月發行 頒價壹圓
關東のそれが解消の運命を辿つた
のに反し關西學生山岳聯盟は益盛に
活躍してゐる様で見事な第四號を世
に送つた。千鳥遠征の所産として千
倉火山列(兒島)及並千鳥登山遠征の
準備に就て(長谷川・杉山)の二編を
筆頭に穂高四編、後立山五編、劔附
近二編、南アルプス三編、美濃地方
三編と内容中々豊富である。而かも
中一二を除いては總て積雪期のもの
で學生の意氣發揚たるを覺える。

三高山岳部報告 第十號

(S・T)

昭和八年六月發行
昭和七年夏同山岳部の試みた北千
鳥遠征の報告に全部の約半分六十餘
頁を費してゐる。内地の登山が或意
味に於て行詰つて朝鮮・臺灣・千鳥へ
と海を越して行くのは當然の事で、
之等は將來のより大きな遠征の準備
として、非常に意義ある事と思ふ。
右の他に一月の鳳凰岳、他十餘編の
紀行文がある。(S・T)

第三年
丸善書店内にある丸善山岳部年報
第三號である。手にして一寸氣持の
いゝさつぱりとした菊版綴である。
頁數九八、寫眞八葉

内容は、説苑中「登山意識に關す
る一考察」に於て小林義正氏は、
登山者なるものゝ心がまへを、そ
して其の實行への過程を、種々なる
文獻を引用しつゝ説き來り、日本に
於てその代表とも云ふべき、藤木、
田部兩氏の文章に於ける、山登りの
動的、靜的な行き方を論じ、最後に
此の兩方面的な行き方も、時と場合
により同一人に表はれ、且つ之れが
圓滿なる調和あることを望ましい
ものであると結んで居る。洵に同感
の至りである。

飛入り格の吉澤一郎氏は氏の研究
になれる「マツターホルンの山名に
就て」中に於て所謂マツターホルン
として世界に知られて居る山に三種
の名稱あることを種々な方面から文
獻引用して非常に興味ある一文とし
て投稿されて居る。

其他植原氏の「山のグルツベと登
山意識」紀行として、三月の仙ノ倉

萬太郎山以下三編、雜録として、比
良山以下十編、部員追憶、部報等は
其の形式に於て何れの山岳部の部報
と其の趣が等しく新し味はないけれ
ども、日常忙し仕事に務めて居て
而も相當の活躍あるは、他の學校だ
とか、より一般的な山岳部の部報に
比べて、活氣が漲り又括まりがよく
ついて居ることを知る。

丸善といへば流石は書店の部報で
あると、一寸見ただけでもうなづけ
るものがある。(額田)

陸地測量部出版目錄

五萬分一地形圖修正

村上	八號	小國
同	十二號	中條
長野	十號	上田
斜里	三號	中標津
同	九號	小清水
岐阜	十六號	竹生島
名古屋	九號	彦根東部
同	十三號	彦根西部
姫路	七號	龍野
岡山及丸龜	十四號	尾道
松江	十六號	松江
大社	八號	大松
廣島	二號	大松
五萬分一朝鮮地形圖修正		竹原
海州	二號	銀波里

(昭和八年六月三十日)

九州山日記

九州山岳聯盟 昭和八年七月一日
發行 頒價五〇錢
最近、力強い團結力を以て活動を
つゞけてゐる九州山岳聯盟が、今度
九州山日記を發行した。日本山岳會

の山日記にヒントを得て、まとめた
ものであつて、一言、山日記の地方
版ともいふべきものである。

編輯の方法は山日記と行き方を同
じうしてゐる。サイブに於て天地を
約一寸縮少した事は携行上成功して
ゐる。本文は登山の注意。服裝。應
急手當。遭難信號等あり、會のもの
と大差なく、次に九州の高度表、小
屋、案内、日程表、スキー場調査表
山岳語彙、文獻抄其他の項目あり、
地方的に狭く深く、まとめてゐる。
終りには聯盟名簿あり、會員章のカ
ットより、各會員の住所録も付いて
ゐる。本文總頁九二頁。

これだけの立派な九州山日記の携
行者がどれ程の數があるかは知らな
いが、聯盟の名簿として、手にする
人々の受ける恩恵は大きい。

會の山日記は色々な階級と全國の
山岳を對照としてゐるだけに、少
らず記述に制限がある。地方版とし
て、九州一圓と限る以上、より以上
深く、詳細に互る記述をしてもい
と思ふ。例へば山岳高度表も峠の高
度表も千米で打切つてゐるのは惜し
くもあり、日程表なども更に研究の
餘地がありはしないか。(Y・T)

日本山岳新聞 第一號

東京京橋 日本山岳新聞社 一部
五錢 月三回發行
四六倍版、九ポイント五段組十六
頁の日本山岳新聞の第一號を開いて
見て、全く期待はずれの貧弱な内容
には驚いた。

第一頁の社説といふべきものに、
「登山旅行に對する認識不足」と題

して、登山旅行はアルの遊びに非ず
と述べ、創刊の辭は、ワンピース、
ポーター、ハイヒールなどといふ
文字を列べて上高地の又聞きらしい
俗化風景を嘆きつゝ崇高な平和な山
に眞摯なアルピニストの旗をたてや
うではないか、と結んでゐる。

二頁以後は地方新聞からでも拾ひ
出したやうな、小さな出来事を大き
く書出したり、低級な山の實話が二
つ程のつてゐる。そして終りの方に
は三頁を費して、飯田町驛の三年間
の七、八兩月の乗車券發賣數を、御
丁寧に目刻にして、表を出してゐ
る。

新聞の切抜通信を購讀して、無數
の山岳會の會報に眼を通すだけでも
もう少し實のあるものが出来る筈で
ある。

編輯者が自身、編輯の技巧などを
知らない山男なりと言つてゐるが、
山に對する認識の不足は加減は巻頭
言以上には堪へやうに思ふ。今後の努
力次第で如何に轉向するかは知らな
いが、第一號のみを以て斷ずるなら
は、一日も早く廢刊を望み度い。

(角田)

「高山深谷」再版出來

今夏、本會にて編纂發行せし寫眞
及隨筆集「高山深谷」の再版は九月
上旬出來致しました。

前號發表の通り、會員割引の希望
者は事務所に御申込み下さい。尙初
版の正誤表は購入者に送付した筈で
ありますが、未着の場合は梓書房宛
御請求願ひます。



山の消息

臺灣近況

沼井鐵太郎

去六月在花蓮港の大タロコ宣傳協會の請に應じて横有恒氏來台され所謂タロコ峽の奥山合歡山・寄葉主山連峰の縱走をされた事は御承知の事と存じます。今夏臺灣に於ける登山は量的にも質的にも更に躍進を續けて居ります。大衆的登山では新高山が昨年よりも遙かに登山者の数を増し、學校關係以外一般社會人及び婦人の登山が旺盛になつて來た様に思はれます。宣傳された阿里山口の自動車道路は水山から鹿林山附近迄、それに阿里山から東山迄阿里山鐵道の一支線が開通した事は、阿里山國立公園協會の宣傳と相まつてイージールトによる大衆の登山意識を促進した様ですが、實際には其等施設は未完成不十分のものが有り、殊に道路開鑿中の故を以て兒玉山を上下しなければならぬ事は、私どもにさへ苦痛と思はれたのでした。

其他新高山で新しい施設は臺中州側八通關駐在所に警察の手を以て獨

立した宿泊所を建設中であり、又臺南州側タロコ駐在所附近にも鹿林山莊と稱する宿泊所が出来る豫定であります。

尙從來不便を感じてゐた入蕃手續も簡略化されて、一州から他州に抜ける者は始めの州で入蕃料を納めれば他は願を出した丈でよい事になりました。

臺灣山岳會發行の新高雄登山地圖も好評にて一般登山者及事業家に愛用されつゝあります。

新高山以外に大衆行のあつた所は、大平山、ビヤナン越、松嶺越であります。特に各女學校生徒の團體が右蕃地ハイキングの間に蕃人青少年子女と交誼會を行つた事は、理蕃教化の上に効果ありし事と傳へられてゐます。

次に臺灣に於ける今夏の登山業績の質的方面を申し上げます。

北から始めて、例の人氣者の怪峰大霸尖山には今迄少くとも二組の登山があり、一は臺北工業學校山岳部、他は臺南高山山岳部の催しであります。後者は大霸尖山から新高山迄縦走した様であります。臺北工業の組は歸途結城駐在所に到る捷徑を登山家として始めて歩いてゐます。

南湖大山へは臺灣山岳會主催の一組と京都同志社大學山岳部の一組とが登つた事が知られてゐます。これもキレットイ經山の普通のルートから登山したのですが、同志社の組(リーダーは兒島勘次君)はブナツケーに三泊野營をなし下山は近頃傾斜に通れないビヤナン鞍部へ下るル

ートをとつたのです。この組は大甲溪道路を下つて後嘉義に到り、阿里山から新高山駐在所に行つて、立教大學山岳部小原勝郎君(會員)の一行及び臺灣山岳會の新高山特別班と合流しました。

右の合同登山は臺灣山岳會のスケデュールによつたものですが、臺灣山岳會からは私一人丈より参加がなく、結局不肯を中心とする内地新進登山家の會合といふ結果に終りました。

私と立教大學山岳部の一行は七月二十八日夜行で臺北發、二十九日タロコ泊、三十日新高山泊にて同志社大學山岳部一行と合す。同志社一行は此日迄に新高山と東山(主山よりの普通ルート)、東山、主山間の一のルンゼ下り谷落坂より一つ東隣のルンゼ、新記録)をやりました。三十一日は全隊で伊達巡查も加はり南山の北の野營地(夏季は水あり)に到りキャンプを張り、南山及び其の東稜を登る(新記録)。八月一日は南山より西の所謂南玉山々稜をトラウエアスして(新記録)再び歸り、新高山に降り泊。二日主山を越え臺中州側長命水附近にキャンプを張り、北山に登り偵察。三日立教大學の一行は前記兒島氏の下りたルンゼを登り東山往復、同志社大學の兒島、入江兩君と私の三人は問題の東山北面を登攀しました。(初登攀)正確にいへば東山には二つの頭がある。その東峰から北下してゐる岩屋根へ、莖濃溪源流地から右の岩屋根末端の西面を登つて一のニードルに取付き

之から屋根通り又はフェースにグアリエーションを求めて登頂したのです。登攀高距約四百米、殆ど純粹の岩ばかり、アンザイレンは其内頂上近くの四分一位を除いて全部、時にコンティニューアス、多くは一人づゝ動きました。平均傾斜は六十度位のものでせう。幸ひにも天候の條件よく、豫想してゐた落石も少く、岩はスレートよりも硬い砂岩が多く、ビレイングロックこそ稀だがホールドは澤山あつて愉快なクライムが出来ました。登攀に要した時間は四時間餘、此内中餐に約三十分休憩してゐます。私は近頃の内地の岩場をよく知りませんが、兒島君や小原君によると、穂高のジャンダルムの飛驒側よりも谷川岳一ノ倉の岩壁よりもスケールが大きく、且つこんなすつきりした岩場は日本では外にないやうです。臺灣の山岳漫談に私が新高山の主山東山は臺灣で一流のまゝまつた岩場であるやうな意味に書きましたが、此度の行でどうやら遠慮を止めて日本中で訂正してもいいかと思ひます。この登攀の下山は東山の東峰(最高峰)から普通のルートを下りて、主山、東山間の主山側から數えて四つ目のルンゼを下りました(新記録)。

八月四日は長名水キャンプをたゝんで八通關經山、南駐在所に到り泊五日秀姑巒山、ウラモン山を長走する豫定でしたが、雲が出た爲と激しい登攀の後、身心が伸びた爲で大霧が山だけで戻り、ゆつくり休養。六日東埔の温泉泊。七日私だけ歸北、

立教大學の一行同志社大學の入江君は日月潭泊にて能高越方面へ、同志社の兒島君と鹽見君は彰化で泊り、九日から大霸尖山次高山方面へ、と別れました。

臺灣に於ける社會人登山家では中々よい組が作れないのですが、今度内地一流の學生登山家と同道するを得て、新しい登攀もやる事が來て私としても満足に至ります。

私の印象では新高山の北面よりも阿里山の塔の岩壁や、タロコ峽の岩壁、シミタの岩壁などの方がスケールも大きく物凄いです。塔山の岩壁は蕃人の狩獵路があり稀に通られると聞いてゐましたが、今春營林所伐採地にはたいてゐる日本人の一组がこの狩獵路の東の大きなガリを登攀したさうです。勿論近代登山の行ひではありませんが。

同志社大學の兒島君等は關山越及關山登山をも覗つてゐます。此の方面へ臺灣山岳會の豫定もあつたのですが人員の關係で延期中のものですが其内に新高山各峰及各溪の名稱について會報第一面に報告していただきます。田中薫君が來台される由藤島君から伺ひました。喜んで御待ちして居ります。

劍岳に於ける女學生團體登山の成功

朝輝記 太留

去る昭和三年七月、女學生の團體を率ゐて劍岳登攀を試みんとせしも天候不良のため堂營林所に三泊、

銀澤小屋に三泊して、只管その恢復を待ちしも、終に壯舉を空しくするの止むなきに到りしが、今年は七月十七日大町出發、女學生拾壹名、男教員一名、寫眞師壹名合計拾四名の團體にて、黒岩直吉、佐伯八郎（途中より佐伯春藏も加はる）外荷夫六名にて針木小屋泊、十八日五色ヶ原泊、十九日立山主峯を経て銀澤前小泊、翌二十日午前七時小屋出發、一旦銀澤小屋に下りしより尾根を攀ちて正午頂上着、休憩一時間四十分、更に尾根を平蔵谷の頭まで下り平蔵谷雪溪の最上端より三拾メートルのロープ二本を繼ぎて六拾メートルとし、深くビツケルの柄を雪中に差し込み、之にロープの一端を懸けてそれによりて各自を下らしめ（之を反覆すること四回）それ以下の緩斜面は人夫一人に生徒二名を護らしめ、無事銀澤に下り前後の小屋に着泊、二十一日地獄谷見物の上追分小屋泊、廿二日富山泊にて下山せり。之を要するに本年の登山期間の六間は良天候に恵まれ、一粒の雨にも遭はず、又人夫を豫定以上多人数使用せしにより、難場の登降に際しては、個人的に充分なる保護と指導を與え得し點は、慥かにこの成功を收め得し理由ならん。予女學生の登山を奨励し、常に其引率者たること爰に三十年、一時不可能ときへ唱へられし銀澤への女學生の團體登攀を初めて敢行せしことは、全く山の神々の御加護であつたのであらうと感謝するのである。

（昭和八年七月三十日稿）

九州 便り

福智山スキーヒュッテ

右は十月迄に完成の筈であるが此程直方市と筑紫山岳會の奔走により土地五段歩、杉柱五百本並に板材料等直方營林署より借用又は拂下げを受けた。建設費五百圓の内既に二百圓は市より繰出資金は市有志其他の後援を俟つて九州山岳聯盟責任の元に建設に取掛る筈。設計建設担当は筑紫山岳會顧問喜代氏之に當る筈位置山頂西南五〇〇米下。水燃料有。收容未定。標高八五〇米。

あせび小屋

位置九重山法華院寺屋敷。標高一三三〇米、木造。所屬筑紫山岳會。收容一五名。右建設の爲某會々員總動員にて勞力奉仕の元に着々工事進行中、七月下旬竣工豫定。

〇九州在往本會員親睦會を兼ねた登山會と集會計劃が、竹内亮氏によつて話が通められつつある。目的地は由布岳、九重山の山歩きと植物講習を行ふ筈。

（月原俊二）

〇香春岳破壊に對する反對聲明

香春岳は福智山脈の南端に座し、全山石灰岩より成れる實に得難き天然風景様式を形成せるもので、山勢頗る峻險、奇特な山容は夙に筑豊の名山として認められた由縁である。又植物學的に此を見るならば日本内地に於て只一種と云はれてゐる、カラスガマズミを初め珍奇なタチデナ、ヨウクララン、バイカイカリソウ、ミヤマトベラ、イワツツバナウツギ、コンデ、ハンシヨウブル等學

界に未知なる植物繁殖し植物學研究上最も貴重なる寶庫とされて居り、地質學的には石灰岩の浸蝕された所謂カルストの發達狀態は平尾臺地に次ぐ天然標本と云はれ、一方縣當局は野猿の生棲地として、古くより禁獵區に制定し、最近其の期間繼續の延長せる場所なり。

更に一ノ岳は古く傳教大師の開山以來寺坊繁榮の地にして、世人の信仰厚く、又香春城は遠く天慶年間に築城され中世の戦亂の巷と化し興亡盛衰の歴史は香春城趾として殘存し最近に至りては近代の登山の隆盛に伴ひ全地の岩場が往復され、北九州に於ける唯一のロッククライミングの道場となりつつある。

然るに昨今の報に寄れば一部無理解説盲な地元民は香春岳は單なる一塊の石灰岩山と見做し、淺薄セメントを誘致して、一ノ岳の大部分及二ノ岳の一部を爆破せしむる計劃企圖なし、町會の可決を経て縣當局に之が許可を申請中の由である。

吾人は茲に上述の如く、史蹟名勝天然記念物保存及學術研究の立場より、同地の原始的な地貌の永久なる保存を希望し一本一石なり共、忽にすべからざる事を主張するものである。依而右聲明書を發し此れが保存に對する一般輿論を喚起し、此れが許可權を握る縣當局の善處を望む次第也

昭和八年七月

九州山岳聯盟

註 香春岳は福岡縣田川郡香春町の西北に在り、陸測圖幅五萬一行橋高標。一ノ岳四九一・八m、二ノ岳四八〇m、三ノ岳五〇八m

魚沼駒の新設小屋

昭和八年七月十五日、越後魚沼駒ヶ岳と中ノ岳の尾根の中間、八合目附近に新小屋が新設された。天狗公園と稱する地點。收容七、八人、水は駒寄りの小池、若しくは北ノ又川へ約三百米下る。備品未だ無し。

從來三嶽巡りは宿泊地の都合悪く二泊三日を要するのが普通であつたが、此の小屋を利用すれば、大湯より一泊にて八海山を経て、下山する事が出来るであらう。

會員通信

八溝山より高笹山へ

六月十八日 大子發（六・一〇自動車）上野宮（六・四〇）磯神（七・三〇）登山口鳥居前（八・〇〇）一本松（九・二六）澤下（一〇・〇〇）一日輪寺（一〇・一五）頂上（正午）高笹山（一・四〇）上野宮（三・五三）

塙圖幅（明治四四年發行）の登山路は變更されてゐる、三尺位の立派な道で蛇穴の部落にまでびてゐる大きな尾根の東側側面を一五〇〇米の道標のあるところまで沿つて行くので、尾根通しを行くのではない。

日輪寺の背後邊約九〇〇米の一帯は美事な潤葉樹の原生林である。八溝高笹山の縦走は展望を期待されない。七七八〇米の登りにかゝる一帯が一帯優れた眺望をもつてゐた。

（行方沼東）

大佐飛山

奥鹽原の大佐飛山、鹿又岳、日留賀岳を縦走すべく、八月二日荻平の部落より大佐飛川廻行、途中四泊にて小佐飛川を下り、荻平に下山した。

此の方面の藪は覺悟のものでしたが、連日悪天候の爲め、一増苦しまれた。眺望は、大佐飛山頂にて、二時間ばかり許された丈ですが、國境の山々を始め、遠く會津、越後日光の連山が白雲の間に模糊として見えがくれしてゐる様は、やゝ女性的な感じですが、實に素晴らしいものでした。そして大佐飛山頂に至る巨樹の森林、鹿又岳より日留賀岳への尾根の偃松の群落は、蓋し縣下第一のものでせう。兎に角此のコースは天候に恵まれたならば、二泊にてシラン澤を下つて鹽原へ、三泊にて小佐飛川より荻平に出るのは可能だらうと思ひます。

人夫は關谷にて頼みましたが、賃銀も安くよく働きました。唯此の方面の山に通じた者の少い事は遺憾です。尙途中、鹿又岳に至る尾根上に泥沼（大さは十五間の五間位）を發見、その形状より潜越乍ら瓢箪池と命名しました。同行者は會員淺野松藏氏、人夫二名でした。

八月二日 荻平（一・〇〇）二俣ヶ谷小屋（六・一〇）、三日小屋（八・〇〇）大佐飛山頂（五・三〇）、四日山頂（六・四〇）山王平（一・二・三〇）一四・〇〇鹿又岳頂上（七・〇〇）、五日發（六・四〇）日留賀岳（一・二・〇〇）小佐飛川尾根（四・〇〇）六日

發(六・三)——小佐飛川廣河原(四)。
〇〇——萩平(七・〇〇) 加藤恭平

白根山庚申山縦走抄録

日光湯本温泉を七月廿日午前七時
四十分發足案内人沼尾彌一郎泉與三
の兩名を伴ひ白根山に向ふ前白根天
狗平へ午前十一時着中食

前白根南端(午後二時着)

白根かくし(湯本邊にて俗に白根か
くしと云ふ)(午後二時二十五分着)
次の尾根に飯松繁り岩山にて奇觀あ
り、この飯松の山に午後二時五十分
着。

次の尾根はリウセン繁茂し鬼怒沼
の景によく似たり、この山の下りに
小池あり水をこしてのむ雷雨に合ひ
二オネ計り越して次の鞍部は午後五
時半着急造の小舎を作りて泊る。

七月廿一日午前七時小舎發四五の
小オネを越して行けば又小池あり周
圍の雜草に有毒のものなければ此の
水を又こして補充して脊負込むこの
處へ午前九時着、錫ヶ岳の中腹より
は中宮祠戰場ヶ原方面の眺望よろし
く、錫ヶ岳頂上着午前十時五十分山

上岩石折重り合いて飯松あり其の他
珍らしき植物多し、下りて次のオネ
の頂きにて中食零時十五分又幾つか
のオネを乗越度に濃霧等に邪魔され
道を誤りはれては方角を定め又大雷
雨に會ひつゝいくつかのオネを通り
宿堂坊を前に見て鞍部より更に谷に
下り水場に至り六時半小舎泊り、七
月二十二日午前六時五十分小舎發、
宿堂坊山頂へ午前八時五十分着、
次は宿堂坊より幾つ目の南の山

の頂へ午前十一時着この無名の山は
宿堂坊より高いです。こゝより二つ
目の鞍部にて午前十一時四十分着中
食又雷雨濃霧に會ひ道を踏み迷ひ大
分むだして次の岩山の頂に五時半着
泊これまで山の數にて大中小共算
へて三十有三。

七月廿三日午前五時半發大いに馬
力をかけて無數の山を通り泉海山頂
へ午後零時半着中食一時五十五分山
頂發雷鳴あり錫山の險山の山を越
し庚申山奥の三角點へ午後六時四十
五分着社務所へ午後八時半着泊、こ
れにて首尾克縦走成就いたしました
初めからの山の數七十座、日數四日
間、至る處美山にして難行路も打忘
れ半月峠を越へて歸宅いたしました
淺野松藏

旅 信

昨日グリンデルワルドから來まし
た。今山はフエーンでいけません。
一日ブラバンドとアイガー氷河でシ
ーをやつたきりです。スイスは昔に
比べて案外物價が安いやうです。

四月三日於チューリッヒ 磯野計
藏チューリッヒの飛行場へ井田清君
をおいてきぼりにして倫敦に飛んで
参りました。アルバイン・クラブで
スマイスがエヴエレストスのベースキ
ヤンプからリエストンさん宛に出し
た手紙をみました。例のHutchinson
が仲々役に立つらしい様で充分自信
があるとのこと。七月にはグリン
デルワルドで井田君と一緒になつ
て大いに登る積りです。

五月廿七日 於倫敦 磯野



會 務 報 告

七月定例理事會

七月十三日午後六時半本會事務所
出席者 小島 高野 高頭 武田
冠 島山 英木 黒田 角
田 神谷 福島

- 一、山岳二十八年度二號發行經過報告
- (黒田)
- 一、關西小集會の件(角田)
- 一、山岳寫真資料展覽會報告(角田)
- 一、英國山岳會へ寄贈すべき幻燈板
は展覽會及高山深谷寫真の中より
二十枚を選定することゝす(島山)
- 一、高山深谷の件(高野)

會員章再交付

會員章紛失の届出があつたので、
左の通り新に會員章を交付した。

會員章番號一四六〇(舊三三三)

東京市瀧野川區田端町二九六

從て舊會員章三三三號は無効とな
つた。

會員計 報

京都市 山元春舉氏(大正三年十一
月入會、會員番號三七三)
昭和八年七月十二日逝去せらる、本
會は茲に謹而哀悼の意を表す。

新 著 圖 書

- 原全教著 奥秩父 明文堂
- 坂部護郎著 銀嶺に立つ 同
- 安齋徹著 東北の山々 同
- 時田勇著 ハイキングの手引 同
- 山口季次郎著 キャンピングの指導 同
- 立大山岳部年報(一九三三)
- 關西學生山岳聯盟報告(一九三三)
- 秩父の歌 著者 松尾 秀一
- 雪線散步 藤木九三著 三省 堂
- 登歩溪流 第三 東京登歩溪流會

ケレン 第一等三 朋 友 堂 山小屋 七、八月號 同 寫眞月報 七、八月號 小西六本店 國際觀光 第三號 國際觀光協會 ツリースト 七、八月號 ジャパンツリーストビューロー 昭和七年度一等水準點測量成果彙錄 陸地測量部 地質圖及説明書 鹿島、須崎、山鹿、 窪川、柳井津 地質調査所 新高登山地圖 臺灣山岳會 國立公園吉野山熊野地方及附近の 探勝案内 吉野山岳會 黒木立 八十八、八十九 關東山岳會 やまなみ 第七 麻布山岳會 不 盡 七月號 富士公園社 歩 跡 四十九 テクリ會 岩雪崩 二五、二六 イムベリアル・マウント・クラブ 登山 七、八月號 武蔵山岳會 山と溪 七月號 山と溪の會 旅路 七、八月號 關東旅行クラブ 山彦 七、八月號 東京山彦山岳會 山 七、八月號 橫濱山岳會 旅行案内 七、八月號 昭和マウントクラブ 獨立樹 七、八號 東京山旅クラブ 旅 七、八、九月號 東京アルカウ會 旅 七月號 東京曉山岳會 旅行 七、八月號 東京旅行クラブ 山旅 七月號 八王子山岳會 霧の旅會々報 第一號 N・G・山岳會々報 第一號 東京市山岳部パンフレット七、八號 明峯山岳會々報 七、八、九月號 日本登高會々報 二二、二三 東京みなかみ會々報 七月號	東京登山溪流會々報 七、八號 關東山岳會々報 七月號 日本山岳新聞 第一號 G・R・K會報 七月號 カールド・ボーイス 七、八月號 旅の趣味會々報 二〇號 魚市場山岳會々報 七月號 藏前山岳部々報 第七號 峠 七月號 神戸跋涉會 ベルグ 二十一 岡山山岳會 山上 八月號 奈良山岳會 朽網 七月號 朽網山岳會 岳友 六、七、八月號 日本岳友會 ハデスツリヤン 七、八月號 關西徒步會 山幸 二四、二五 阪神山岳會 管見錄 六、七月號 大阪管見社 せふり 七月號 福岡山の會 しらかんば 二一—二三 都島工業山岳會 アルカウ趣味 七、八、九月號 日本アルカウ會 廣島山岳會々報 七、八、九月號 R・S・C部報 七、八、九月號 奈良みなかみ會々報 二五—二七 戸畑山岳會彙報 八月號 臺灣山岳彙報 六、七、八月號 九州山岳聯盟報告 八號 神戸旭山岳會報 七月號 京都山岳會々報 八月號 豐崎登山俱樂部スキー報告 十三 神戸アエモ會々報 七、八月號 田川山岳會誌 第三號 O・S・M・C會報 一號 The Geographical Journal Vol. LXXXI No.6 Jun. 1933 The Canadian Alpine Journal	Vol. XXI. 1933 The prairie club No.27 Jun. 1933 Bulletin Appalachian Mountain Club Vol. XXVI No. 9 1933 Mountaineering Journal Vol. I No. 4 Jun./Aug. 1933 Trail and Timberline, No. 176 Jun. 1933 The Mountaineer, Vol. XXV No. 7/8 Jun./Jul. 1933 Revue Alpine No. 1 Annee 1933 Premier Trimestre Die Alpen Vol. IX No.6 Juni 1933 Butlet Club Alpi Catala Any XIII Num. 456 Maig 1933 Unione Ligue Escursionisti Anno 20 N. 4/5 Aprile/Maggio 1933 Rivista Mensile Clue Alpino Italiano Vol. LII Num. 5 Maggio 1933 Planinski Vestnik Stev. 6-7 Ieto 1933 Svenska Turistforeningens Tidning N: r 5 Juni 1933 Bulletin Arpalachian Mountain Club No10 June 1933 Butlet Centre Excursionista De Catalunya Any XIII Num. 457 Janj 1933 Trail and Timberline No. 177 July 1933 Club Alpino Italiano Vol. LII Num. 6Giugno 1933 La Montagne Numero 249 Mai 1933	Bulletin Du Club Alpine Belge No. 28-29 Oct.-Dec. 1933 The Mission scientifique Belge dans le massif du Ruvenzori 購入圖書 大阪毎日新聞社發行 モウヘンスト寫眞集 會員寄贈圖書 地震 五卷 五、六、七號 朝日新聞社編 山に行く人々、 角田 吉夫氏 倉田義三郎編 俳諧霧の草鞋 鳥山 梯成氏 The Geographical Journal Vol. LXXXI No.6 June 1933 (Rev. W. H. M. Walton)	關西小集會記事 日時 昭和八年七月十日 場所 大阪堂ビル清交社別室 講演 登山文學に就いて 田部 重 治氏 田部氏は此の春の關西小集會に 講演をお願いしてあつた處、突然然 の御急病の爲に來阪中止のやむなき に到り、當日集つた會員諸氏一同實 に残念に思つてゐた。今回は又改め てお願いした處、快く承諾を得氏に 接する機會を得た事は幸である。多 數の來會者は氏獨特の文學的雰囲気 に包まれ興味深く有意義な時を送つ た。(津田記) 出席者 大野 正市 西岡 一雄 吉澤 一郎 名須川 渡	服部 鏡一 高橋 健治 美濃島 巍 井上仙之助 米澤 政吉 下川 友記 山崎 彦賢 津田 周二 宮崎 武夫 松井久之助 下山 勇 中原繁之助 頭井豐次郎 杉本 俊二 小倉 志郎 渡邊小兵衛 大井 彰一 政友 巖三 影山 寅造 小川正十郎 喜田清左衛門 田部 重治 藤木 九三 他會員外四〇名
--	---	---	---	--	--

編輯後記

會員消息によると、今夏は臺灣が可成り賑つたやうである。カナダのパンフにみる松方、浦松兩氏の山の便りを鶴首してゐたが未だ届かないので、未だ決定的なものではない。諸兄の御意見を大いに送つていたゞいて、研究を續けて行き度いと思つてゐる。

尚、會報の内容を充實するためにも、大いに投稿のあらん事をお願いする。(角田)

昭和八年九月十四日印刷
昭和八年九月十五日發行

發行所 日本山岳會
編輯印刷人 額田 吉夫
不三郎ビル
發行所 日本山岳會
廣告一手取扱 進 恒 社
電話四谷五六一番